



主語と目的語を表す助詞

ポイント

1. 主語と目的語は、主語だけに助詞を付ける。
2. 主語を表す助詞には「が」と「ぬ」があり、名詞の意味によって使い分ける。

1. 主語と目的語

文を作る、大事な要素に「主語」と「目的語」があります。主語とは、主に動作をする人を表し、目的語とは、主に動作をされる人やものを表します。例えば「太郎が水を飲んだ」という文では、「太郎」が「動作をする人」なので主語、「水」が「動作をされるもの」なので目的語です。日本語では、主語に「が」、目的語に「を」という助詞をつけます。

日本語	(1)	太郎	=*	が	水	=	を	飲んだ
		主語		助詞	目的語		助詞	

では、しまむにではどうでしょうか？しまむにで同じ文を言うと

しまむに	(2)	たろー	=	が	みじ	ぬだん
		太郎	=	が	水	飲んだ

となります。主語の「たろー(太郎)」には「が」という助詞がついていますが、目的語の「みじ(水)」には「を」にあたる助詞が何もついていません。

もう1つ、似ている文「お母さんが私を呼んだ」を見てみましょう。

	(3)	あま	=	が	わん	あびたん
		お母さん	=	が	私	呼んだ

やはり主語の「あま(お母さん)」には「が」がついていますが、目的語の「わん(私)」には、「を」にあたる助詞がついていません。

このように、しまむには主語と目的語のうち、主語だけに助詞(「が」など)をつけます。

※ このテキストでは、他の言葉と区別するために、助詞の前に「=」をつけています

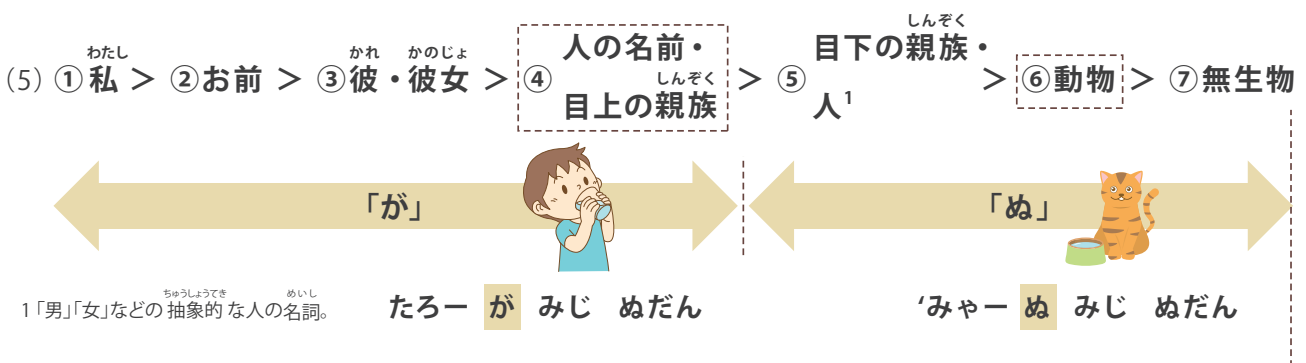


2. 主語を表す助詞の使い分け

さて、先ほど「しまむにでは、主語だけに助詞を付ける」と言いましたが、主語につく助詞には、実は「が」と「ぬ」の2つの形があります。先ほどの「たろーが みじ ぬだん」では、主語に「が」がついていますが、同じ文でも「水を飲む」のがネコになった場合は、(4)のようになり、主語の'みゃー(ネコ)には「ぬ」という助詞がつきます。

(4) 'みゃー = **ぬ** みじ ぬだん
ネコ = が 水 の 飲んだ

では、この「が」と「ぬ」はどのように使い分けられているのでしょうか？この使い分けは「有生性の階層」という言語学の理論で説明できます。「有生性の階層」とは、簡単にいうと「名詞を自分に近い順番にならべた」イメージで、しまむにでは、(5)のようになります。



そして、主語が「人名・目上の親族」より左の名詞のときは、助詞に「が」をとり、それよりも右の名詞のときは「ぬ」をとります。先ほどの「太郎」くんは人の名前なので「が」をとりますが、「ネコ」は動物なので「ぬ」をとると整理できます。

このように、しまむにの主語の助詞には「が」と「ぬ」がありますが、前の名詞の意味によって、2つを使い分けているのです。

練習問題

下の語を使って、(1)～(3)の文を、しまむにに直してみましょう。

わん(私)	あちゃ(父)	いんが(男)	'わー(豚)
みじ(水)	めー(ご飯)	かだん(食べた)	みちゃん(見た)
			ぬだん(飲んだ)

(1) お父さんがご飯を食べた。 (2) 男が私を見た。 (3) 豚が水を飲んだ。